

## 本専門委員会における適応対策の議論について

### 1. 国際戦略専門委員会における議論の経緯

(1) 気候変動問題に関する今後の国際的な対応について（中間報告）（平成 16 年 12 月）

- ・ 適応策に関しては、緩和策の補完策としてどう位置付けるべきか、気候変動への適応策と通常のインフラ整備・開発との区別をどのようにすべきか、また、どのように他の政策や開発計画に組み込んでいくかなどが課題となる。（8 将来枠組みのあり方について／(2)適応策の特徴と課題, P88)

(2) 気候変動に関する国際戦略専門委員会第 2 次中間報告「気候変動問題に関する今後の国際的な対応について」（長期目標をめぐって）（平成 17 年 5 月）

- ・ 気候変動による影響は、甚大かつ不可逆的なものとなるおそれがある。また、これまでに人類が排出した温室効果ガスにより、既にある程度の地球温暖化は避けられない。
- ・ 「地球温暖化問題におけるリスク管理」のための政策の決定を支援する、知見の蓄積や手法の開発は重要な課題である。これらの課題には、影響の発現や閾値を超えるタイミングに関する研究の進展を踏まえ、いつどのような対策をとることが適切か、緩和と適応のバランスを如何にとるかといった課題も含まれる。（7. 今後の検討課題／7.2 気候変動問題におけるリスク管理, p21-22)

(3) 第 11 回気候変動に関する国際戦略専門委員会（平成 17 年 10 月 3 日）  
（適応問題の検討の必要性について事務局から以下の点について説明）

- ・ 適応は気候変動問題の主要な対策の一つ
- ・ 適応は主要課題となりつつある。
- ・ 適応問題への適切な対処にはまず専門的な観点からの検討が必須

### 2. 国際戦略専門委員会における今後の議論について

- ・ 適応対策については、国際的には以下の取組を中心に検討が進められると予想される。

- 適応5ヶ年作業計画に基づく作業の内容と優先順位に関する検討
- 適応基金などの基金に基づくプログラムの検討
- 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書
- ・ このように、適応対策に関する議論が国際的に本格化しており、2013年以降の気候変動対策の構築の議論においても重要な論点になると想定される。従って、適応対策を我が国の国際戦略上の観点から検討していくことが重要である。
- ・ 適応対策についての議論は、以下の2つに大別することができる。
  - ① 日本自身の適応対策をどのように推進していくか。
  - ② 国際的な適応対策（特に開発途上国における適応対策）をどのように推進していくか。
- ・ 本専門委員会においては、今後予想される次期枠組みの本格交渉に備えるため、SBSTA 適応5ヶ年作業計画の作業等の進捗状況も踏まえつつ、以下の点を中心に検討を行い、論点を整理することとしてはどうか。

#### ○ 適応対策に関する知見の整理

- 適応に関する科学的知見について
- 分野ごとの各国の適応策の事例について
- 対策のコスト（Cost of Action）と対策を講じない場合のコスト（Cost of Inaction）について
- 適応に関する国際交渉の動向について
- 他国の適応計画の策定状況について
- 適応に関する基金の状況について
- その他

#### ○ 適応対策に関する戦略的な検討

- 我が国において、気候リスク（熱波、海面上昇、食糧不足等）を低減するための方策
- 次期枠組みへの開発途上国の参加インセンティブを誘導するための方策
- 次期枠組みにおける緩和対策と適応対策とのバランス
- その他